

令和5年度 学校評価における自己評価分析報告

1 学校評価回答表対象者と回収率

- (1) 職員 100% (30名)
- (2) 保護者 100% (5名)
- (3) 臨時職員 100% (6名)
- (4) 地域の方々 100% (36名…学校と関連のある事業所、施設等)

2 学校評価の分析方法について

- (1) 学校評価結果をもとに、数値と記述から割り出した結果から成果と課題を検証しているため、今年度の学校運営および教育活動を取り組んできた結果の全てではない。
- (2) 本校の学校評価の特性として、評価する人の数(分母)が少ないことによる数値の変化が大きいため、多少の数値の増減は、あくまでも参考数値として分析する。

3 学校評価結果および分析

(1) 教職員・非常勤のアンケート結果

【結果】

- ・ A(そう思う) + B(だいたい思う) で100%近くになっている項目が多い。
- ・ 昨年度に比べてAの評価の割合が高くなり、Bの評価が低くなっている項目が増えている。
- ・ 「開かれた学校づくり」に関する次の項目では、Cの割合が10~30%と昨年と同様、低い数字となっている。

項目 29 私は、他の職員と協力して、本校の特色について、懇談や掲示物、ホームページや通信等を通して保護者や地域住民に説明している。

項目 30 私は、他の職員と協力して、外部機関と連携して、個別の教育支援計画を活用した教育活動を行っている。

項目 32 私は、他の職員と協力して、PTA活動等を通して、保護者と連携して教育活動を進めている。

項目 33 私は、他の職員と協力して、学校行事や学習活動などを通して地域との連携を深め、交流の機会を設けている。

項目 34 私は、他の職員と協力して、関係機関との連携を図りながら特別支援教育のセンター的機能の発揮に努めている。

- ・ 教育環境に関する項目「項目 25 施設整備の管理・整備」についてはCの割合が3.3%となり、昨年度より8.3%減っている。

【課題】

- ・項目 29、30、32、33、34 についての「開かれた学校づくり」に向けての項目については、回答表でA（そう思う）とB（だいたい思う）が割合の8割となっている項目が多いことがうかがえる。このことは、今年度、A（そう思う）の緩和に伴い地域交流活動が徐々に回復傾向に向かっていることが考えられる。

【まとめ】

- ・5月以降、新型コロナウイルス5類感染症に移行されてはいるが、これまで同様、感染対策を講じて安心安全な学校生活に努めた。
- ・項目2「教育公務員として自覚を持ち、学校運営に関わる」では、職員一人一人が学校運営に参画する意識が高いという評価となっている。働き方改革やカリキュラム・マネジメントを見据えた学校課題に対して取り組む姿勢の表れと考えられる。校内外において「開かれた学校づくり」に向けて、関係部署と連携をとりながら業務に組んでいきたい。

(2) 保護者へのアンケート結果

【結果】

- ・ほとんどの項目で、A+Bが90%以上と高い数値となっている。

【課題】

- ・昨年度まで実施できなかったPTA活動は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて3年ぶりに開催することができた。また、入学式、学校祭など、学校行事の実施にあたっては、感染予防や感染対策の観点から保護者の皆様のご協力をいただくことができ、「健康・安全」の取り組みに一定の評価をいただいていると思われる。

22項目のうち21項目でA評価が80%以上と高く、昨年を大きく上回っている。

項目11「生徒一人一人の人権に配慮した指導・支援」項目18「寄宿舎生活の様子を保護者に伝達」項目への情報提供」の項目でAが100%と高い数値になっていることから、生徒指導、寄宿舎生活の取り組みには一定の理解をいただいていると思われる。

項目5「進路先について具体的な校内実習や現場実習を通しての取り組」項目19「進路指導に関する情報や資料等を保護者に提供」の項目でもAが100%と高い数値になっていることから、卒業後の進路指導に一定の評価をいただいていると思われる。

- ・本校が信頼され、充実・発展するための方策としての記述からは、行事や社会見学で地元夕張を題材とした学習内容や地域との交流機会を増やしてほしい等の意見がありましたので、次年度に向けて、夕張の地域を軸とした学習内容の検討が必要と考える。

【まとめ】

- ・本校の生徒は、全員が寄宿舎での集団生活を送っているため、新型コロナウイルス感染、インフルエンザ等の集団感染予防の観点から発熱等の症状のある場合は帰省の協力をお願いしている。全体を通して、各項目においては、学校・寄宿舎での生活については高い評価をいただき、保護者の皆様には多くのご協力をいただいていることを強く感じた。

- ・「一人一人の実態・障がいに合わせて指導」については高く評価されており、学習内容や寄宿舎の様子を適切に保護者に伝える事ができていると認識できる。今後も丁寧な対応に努めていきたい。
- ・進路指導については、昨年度からオンライン・リモート開催という形式で進路説明会を行っている。学校見学や教育相談に関しては、進路担当が対応して説明を行った。また、施設見学や現場実習においては、施設のご協力をいただきながら実施することができた。

(3) 地域の方々への回答表結果

【結果】

- ・「本校がどのような生徒を対象とした学校」であるかは 100%の高い数値で、学校の存在については認識されている。また、「本校でどのような学習をしているか」については、56%の方に理解していただいている。
- ・学校に関わりのある方が対象であることもあり、学校だよりを見たことがある方は67%と、昨年比べて増加した。また、市役所南支所に置かれてある広報パネルについては、半数以上の56%が見たことがないと回答している。
- ・「見学したい」という回答は86%、「一緒に活動してみたい」という回答は86%といずれも高く、関わりを持ちたいという気持ちが多く表れている。

【課題】

- ・今年度は、コロナウイルス感染予防を講じて、職場体験を総合的な探究の時間における地域に出た交流活動を実施することができた。また、グループホームとの交流イベントでは、本校の生徒が作成したカレンダーを持参した。
- ・市内の小学校・高等学校から特別支援教育「パートナーティーチャー等でお世話になっています」などといった、特別支援教育の中核としての、これまでの実績や役割を期待する声が多かった。
- ・「見学したい」「一緒に活動してみたい」という回答の多さに、本校の教育活動についての関心の高さが伺える。行事などで訪問や、市内で活動を見ただけでなく、見学や活動の機会があれば参加したいと考えている人が多いことが伺える。

【まとめ】

- ・地域の方々の評価は学校に関係ある事業所等の方々に協力していただき集計したが、学習の様子の見学や、一緒に体験の場があっても良いと考えている人が多い印象である。
- ・特別支援教育についての関心の高さから本校の存在意義を高く評価していただいた。これまで実施してきた学習活動を中心に、家庭、地域、学校との繋がりを軸に地域全体で子ども達の学びや成長を支えながら、学校を核とした地域づくりをめざして、今後も「社会に開かれた学校づくり」に取り組んでいきたい。